速報　ＪＲ総連緊急対策本部情報
ＪＲ総連 東北地方太平洋沖地震 緊急対策本部情報
2011年３月29日
15：00発行　№24
発行：全日本鉄道労働組合総連合会

頑張ろう！被災者のみなさん。

後片付けを手伝い

苦しい中でも助け合う 宮古連合分会

支援行動レポートvol.12

【23日は宮古市に】

ＪＲ総連と前日に釜石に入ったＪＲ北海道労組の２台の車は23日、宮古地区へ向け出発しました。宮古では前日から入ったＪＲ北海道労組の２人と合流しました。この日は、それぞれ組合員やＯＢ宅をまわり、物資の配送と後片付けなどの手伝いをする事となりました。

ＪＲ東労組宮古連合分会では分会事務所を救援拠点に、被災した組合員自らも支援活動を行っています。新築の家が流された若い組合員もいます。支援物資を北海道から運んで来たことに、心から感謝の言葉が述べられました。また、地震や避難所の状況のほか、報道では伝えられないひとり一人の不安や悩みもお聞きしました。「仲間がいたから、自分は頑張れる」と語っていた事がとても印象に残りました。

ＪＲ総連は佐々木分会長と、千鶏(ちけい)という地域の避難所をめざします。山田湾に面したこの漁港を襲った50メートルの大津波は、30メートルの高さに立つ避難所に「指定」されていた千鶏小学校を、２階まで飲み込みました。

現在、千鶏地域の避難所には20数名の住民が避難されています。大規模の避難所と比べ、この避難所にはカップ麺がわずか数箱届いているのみでした。水や電気のライフラインも完全にダウンし、いつ復旧するかの目処は立たないとのことです。

住み慣れた土地が壊滅的な状況になってしまった人たちの将来を考えると、やりきれない気持ちです。私たちは、宮古の仲間と一緒に今後も復興に向けて頑張ると決意を固め、一日の行程を終え盛岡地本へ戻りました。

（つづく）

【写真上から】大津波が駆け上がったリアス式海岸で谷の上からはるか先の海を望む／町の中に打ち上げられた漁船／津波の爪痕が残る集落／支援活動をおこなう宮古連合分会の仲間